



## 面接指導 1.21

退職校長会の協力で5名の退職校長にお越しいただき、入試に向けた面接練習をしていただきました。

日頃は先生方を相手に面接練習をしていますので、いつもと違った緊張感がある面接練習だったようです。終わった生徒からは「緊張した〜」「ホッとした」というような声も聞かれました。

5名の面接官の中には、**第26代校長 高場雅久先生**、**第27代校長 甲斐昭児先生**がいらっしゃいました。甲斐先生から感想をいただいていますので紹介します。

面接を通して感じたのは、生徒の皆さんの誠実さと素朴さです。聞かれたことに対して、経験を基に何とか答えようという真剣な表情や仕草が随所に見られ、大変好感がもてました。「上手に答えることも大切だが、それ以上に、自分の良さを正直に伝えてほしい」と、それぞれのグループで話をさせてもらいました。

また、高場さんが言った「私の頃よりも整然としています」という思いを、私ももっています。立ち止まっただけの丁寧なあいさつや話を聞く真摯な態度が、訪問する度に心に残ります。こういう良さが伝統となって受け継がれていくのでしょう。

さて、退職校長会の役割の一つは地域や学校への協力だと思っています。今後も、微力ながら協力させていただきますので、お手伝いできることがあれば遠慮なく声をかけてください。

3年生全員の合格をお祈りしています。



## 面接練習で思うこと

毎年指導していて思うことは「限られた時間の中で人間性を見抜くのは難しいのか」ということです。実際はそんなことはありません。1〜2分で人物像が見て取れます。面接は、面接官が質問する前の第一印象から始まっています。服装や姿勢、礼（お辞儀）の仕方、返事、声の大きさ、明るい雰囲気など、質問以前に勝負が決まってしまう生徒も実際にはいます。じっくり話していくと、意外にも・・・ということはあるでしょうが、面接ではじっくり話すことはありませんから、言動や質問への答え方など、日常の言動、生活態度がすべて短時間の面接に反映されます。

「人は見た目が9割」という本に、コミュニケーションには、言葉で伝えるバーバル・コミュニケーションと、言葉以外の伝達であるノンバーバル・コミュニケーションの2つがあると出ています。実は心理学では、人間が伝達する情報の中で、話す言葉の内容そのものが占める比率は7%に過ぎず、後者

の方が、情報を伝達する上で93%を占め、大きな要素となっていると言います。

「人はみかけではない」と言う人もいますが、実際は「みかけは重要である」ということです。正しくは「人は見かけだけで判断してはいけない場合もあるが、みかけで判断されることが多いと考えて行動しなければならぬ」ではないでしょうか。

日頃から身だしなみを整える。それが世の中の常識です。学校生活でも、制服など身だしなみに気をつけて着こなせない人は、それが習慣となってしまう。世の中には制服のある職業が結構多いものですが、企業イメージを損なうような着こなしかできない人を雇う会社はありません。

美しい礼、あいさつ、にこやかな笑顔、はきはきとした返事など、自分のイメージを高めるスキルは中学生段階からも必要となっています。

面接の質問内容としては、

- |               |                |                 |
|---------------|----------------|-----------------|
| 1 志望理由 86%    | 2 受験番号氏名 79%   | 3 高校でやりたいこと 72% |
| 4 部活動について 69% | 5 将来の進路 50%    | 6 中学時代の思い出 50%  |
| 7 得意教科 48%    | 8 欠席・遅刻の理由 46% | 9 趣味・特技 45%     |
| 10 自分の性格 41%  |                |                 |

などのデータがあります。学校によって個人面接か集団面接と形態も違いますし、一問一答ではなく、「〇〇について自由に討論を」など、会話の中から反応を確かめる手法もあります。日頃の生活習慣、癖（くせ）がでてしまうのが面接の怖さです。「日常が練習の場」と心がけて学校生活を送ることが大切だということが分かります。

## 超一流おもてなしの心・技・体

元ANAの里岡美津奈さんが経験をまとめた「超一流おもてなしの心・技・体」の中で「第一印象は二度ない」という印象的なフレーズがあります。里岡さんは、「言い換えれば、第一印象ですべてが決まる、といっても過言ではない」と言い切ります。更に彼女は「重要なのは、清潔感、品のよさ、健康的であること」と述べています。

知人がある温泉に行った時の話です。アルバイト青年の言葉や物腰は丁寧で落ち着いているものの、腰までズリ下げたズボンからパンツが見え（見せていた？）、一気に不愉快な思いになり「二度とその店に行かない」と怒りまで覚えたそうです。接客業は、従業員の着こなし一つで客を失うものなのです。現実社会は厳しいです！

